

整 理 ツーリズム 天

職 観 光

ま ち

年 表

使 命

多 様 性

塩見直紀の  
京都発  
コンセプト  
88

半農半Xから1人1研究所まで

塩見直紀  
半農半X研究所代表

Local A to Z



## はじめに

人生を終えるまでに、書いておきたい本が3つある。1つは、これまでの人生のなかで他者から教わり、多くの人に伝えておきたいことを100話、パッケージにする本だ。仮称「G100」と呼んでいる。Gとはギフト(贈り物)、ギブ、レガシーを意味する。この「G100」だが、僕だけがまとめるのではない。世界中の人が人生で学んだことを書き遺していく世界的なムーブメントにしたいと思っている。

書きたい本の2つ目は、この10年ほど取り組んできた古典的編集手法A to Zのつくり方に関する本だ。Local A to Zと呼んでいる。

書きたい本の3つ目は、これまでの人生のなかでつくってきたコンセプトやキーワード、試してきたことをまとめた本だ。ありがたいことに、いま手に取ってくださっている本書はこの本となる。

本書はいままでの人生のなかで拙いながら僕が考えた88のコンセプト集である。小さな農と天職を組み合わせた「半農半X」はその代表的なことばだが、半農半Xも88の1つで、計88個という位置づけだ。これまでの人生を振り返ると、京都の綾

部で生まれ、伊勢での4年間、就職した大阪(新大阪、守口)での暮らし約4年間をのぞくと、すべて京都でお世話になってきた。

以下が本書の章立てとなる。1章は子ども時代からフェリシモ時代(嵐山、一乗寺)、2章は半農半Xからの学びを中心に(綾部)、3章はNPO法人「里山ねっと・あやべ」での学びを中心に(綾部)、4章は2016年に開学した地域系の公立大学「福知山公立大学」での学び、試みを中心に(福知山)。5章は京都市立芸術大学博士後期課程での学びを中心としている(京都など)。そして6章はみんながライフワークを探究し合う1人1研究所社会など、めざしゆく世界について、未来に託すコンセプトをまとめ記している。88のコンセプトのうち、どれか1つでも今後の人生に、まちづくりに、未来の教育などに活かされたらうれしい。88話には僕からの「問い」も添えている。自問いただけたらと願う。また京都に関する関連情報(人、取り組みなど)も添えている。京都の「もう1つのガイド」となれば幸いだ。

人生の多くを京都で過ごし、京都府内で考え、生まれた思索をまとめたい。京都新聞の丹後・中丹版で7年間ほど、「風土愛楽」というエッセイを書かせていただいたご縁で、本書を京都新聞出版センターから世に送り出してもらえることになった。チャレンジある意思決定に感謝したい。

はじめに 2

塩見直紀ブックガイド 12

塩見直紀ワークブック、ワークシート 14

A to Zとは？／本書について 16

第1章 自分探し時代の学び 子ども〜フェリシモ時代（1965〜1999）  
17

1 21世紀の2大問題 環境問題と天職問題の時代をどう生きるか 18

2 人生の2つの締切 33歳と42歳という締切年齢の設定 20

3 時間軸系コンセプト 後世、7世代先、将来世代という思想 22

4 こども里山ビジネス 地域資源から自主財源をつくる力 24

5 山の神さまの家の建築家 見えないものを感じるころ 26

6 ことば貯金ことは銀行塩見直紀本店 自分で自分を鼓舞する大事さ 28

7 未来の学校 ポストスクール ことばによるセレンディピティ 30

8 半農半X 20代のときにつくった自分を救うためのことば 32